

# ビョウヤナギ

牧 幸 男

新緑に降り注ぐ梅雨の雨、いわゆる青梅雨の頃、時折雲間から太陽が顔を出すことがある。この時の太陽の光に、もう真夏と変わらない強さを感じる日がある。この光を浴びると、間もなく本格的な夏の訪れを予感してしまう。雨模様が続く梅雨のひと時の晴れ間は、ホッとする時である。梅雨の季節はともすると鬱陶しい気分だが、ビョウヤナギの花を見ていると心が明るくなる。太陽の光に反射して大形で鮮やかな黄金色の花弁は、輝きを増し見事な風景をかもしだす。最近、この植物を道路の縁取りに使ったりしているので目にすることも多い。我が家の入口に生育しているこの花は旺盛な繁殖力を示している。花期以外は、緑一色だが、花の時期だけは自分の存在を強く示す植物だ。植物名を耳にすると「ビョウヤナギ」を「びょう（病）」に関係があるのかとばかりかと思ひ、一瞬間感じになることもあるが、本来の植物名の由来を知ると忘れられなくなる。



ビョウヤナギの花

ビョウヤナギは、中国原産のオトギリソウ科の半落葉低木で人家に植えられることが多い。高さ1m内外、茎は多く枝分かれして褐色である。葉は薄く葉柄はなく全縁で、葉を透かしてみると、オトギリソウの葉のような細かい油点が分布している。夏に枝の頂端部に集散花序を付け、花柄のある大きな黄色の花を付ける。特徴は、糸のように細くて長い雄蕊が作り出す曲線の素晴らしさと、黄金色の花びらの美しさを際立たせていることである。一つの花の寿命は短い、蕾が多いので、梅雨が明けると毎日咲く花期の長い植物である。我が国には、宝永5年(1708)に渡来した記録があり、貝原益軒の『大和本草』(1780)では「金子桃」と紹介している。類似植物にキンシバイ(南雲連翹、芒種花、ピペリカム)やヒペリカム・ヒドコート等があるが、花びらの形や咲く姿、雄蕊の形等から区別ができる。

この花を有名にしたのは白楽天(772~846)が『長恨歌』の中でビョウヤナギを次のように詠ったことが由来である。

歸來也苑皆依舊

太液<sup>\*1</sup>芙蓉未央<sup>\*2</sup>柳

芙蓉如面柳如眉

對此如何不淚垂

注：\*1太液(池の名前)、\*2未央(楽しみが尽き果てることがないように、と言う祈りが込められた宮殿の名前である。)

この詩は安祿山の乱(755)で楊貴妃を失い、都に戻ってから彼女と過ごした日々を、悲嘆の気持ちで過ごした様子を現したと言われている。意味は「池や庭のたたずまいは、昔となんの変更もなく、太液池の蓮の花も、未央宮の柳もそのまま美しく咲いている。蓮は楊貴妃の顔に、柳は眉のようだ。これを前にしてどうして涙を流さずにいられるか。」である。玄宗皇帝(682~762)が楊貴妃(719~756)の魅力に捕らわれたのは彼が60歳を越えた時で楊貴妃は27歳の時だった。玄宗は楊貴妃の魅力に捕らわれ、彼女との華やかな生活と

遊惰に溺れ、政治を忘れたため、安祿山（703～757）の乱により、馬嵬（現在の陝西省咸陽市興平市）の悲劇がおこった。楊貴妃を寵愛していた玄宗は「楊貴妃は後宮の奥深くにいて、謀反との関係は全くない。」と言いかばった。しかし、高力士によって縊死させられ楊貴妃の最期を泣きながら見届けたとのことである。この時、南方から献上のライチが届いたため、玄宗は楊貴妃がこよなく愛したライチ見て改めて嘆いたと伝えられる。楊貴妃最後の言葉は、「陛下、死んでもあなたを恨みません。」と述べたとされている。遺体は郊外に埋められた。この時、安祿山は楊貴妃の死を聞き、数日も泣いたと伝えられる。

楊貴妃死後50年経った元和元年（806年）頃、白楽天は玄宗と楊貴妃の物語を題材にした長編の漢詩『長恨歌』を発表した。中国の長い歴史の中で一コマの出来事かもしれないが、今日でもこの出来事は忘れられることがなく、中国で記憶が残っていることを知った。私は中国を訪れた時、この出来事の地（西安）をぜひ訪れたいと思っていた。

この地はかつて「長安」と呼ばれた古都で、シルクロードの起点の都市のため歴史的な遺跡が数多く存在している。現在の長安にて一番有名な所は「秦始皇帝陵博物院」（兵馬俑博物館）であるが、白楽天が『長恨歌』を詠んだ玄宗皇帝が楊貴妃と過ごした「沉香亭」が再現されていた。更に、楊貴妃を失い彼女を忍んだ「華清池」もあり、その入口に始皇帝と楊貴妃が手を取り合って楽しげに踊っている大きな像が建っていた。

植物名が影響しているのか、歴史上問題ありとしているのか、日本では最近まであまり詩歌の対象にされてこなかった。

君を見て びょうやなぎ 薫るとき 胸騒ぎをば おぼえそめにき 北原白秋  
彼女眉 目よし未央柳を むざと折る 高浜虚子

びょうきゅう

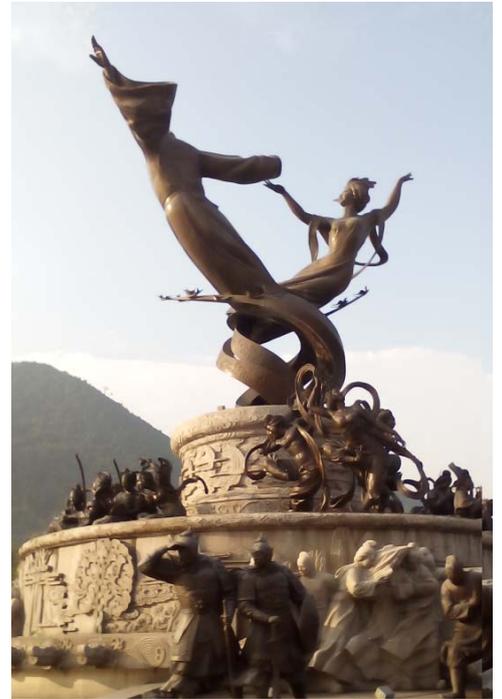
びょうやなぎ

植物名は、昔長安の都にあった宮殿の一つ「未央宮」のそばに植えられた柳に似ているので未央柳と或いは花が美しく葉の細いことを柳になぞらえて美容柳とも言われている。漢名は習慣的には金線海棠を使うが、未央柳も使う。別名には金糸桃、美女柳などもある。いずれも桃の花に似ていたり、雄しべがたくさん出て金糸のようであるからだ。ビョウヤナギの記述は園芸種のことで、ビョウヤナギが正しいと記述されることもあるが、『牧野新日本植物区鑑』ではビョウヤナギとあることを付記する。

学名はHypericum chinens で、属名はギリシャ語 hypo（下）+erice（草むら）、または hyper（上）+eikon（像）が語原といわれる。種小名は、中国の意である。

薬用には、全草を昔から月経痛、月経不順、つわりと、それらを原因とする精神不安に効果があるとされ、葉、茎を乾燥したものは止血、解熱、解毒作用の効果を發揮すると言われてきた。

花言葉は「多感」「気高さ」「幸い」「あきらめ」等である。



玄宗皇帝と楊貴妃が踊る姿の像